

# 八木健の川柳アート

78

大臣を首にオフレコをオンにして  
 鉢呂産業経済大臣が「とんでもない」発言で辞任に追い込まれた。あれは「お調子者」の鉢呂さんが、記者に対して親愛の情を示したのだ。洒落のわからん記者もいるんだから、大臣になったら気をつけんとあかん。

今月の八木健



大臣を首にオフレコをオンにして

やぎけん

特選

選者・川柳アート  
八木健

（月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者）



石原 康正 (松山市)

引退を見事に演出携帯メール  
 某タレントが引退に追い込まれた。携帯に残された百六通ものメールは、暴力団との深い関係の証拠で、暴力団の準構成員と判断された。彼の「品の無い顔」はそういう世界との付き合いで形成されたのかも。

佳作



前田 重信 (愛南町)

別嬪にバカバカバカと言わせない  
 別嬪はどういうときにバカバカバカと言うのか？ バカバカバカは親愛の情である。こんな川柳を投句したから、今頃は奥さんから「バカバカアホ」と言われているに違いない。



丸山輝余子 (松山市)

ファッションショー蹴鞠みたいな足さばき  
 蹴鞠と見立てたところがいいですね。日常的にあんな歩き方する人はいない。ではなぜあんな歩き方するのか。普通に歩いたらファッションショーにならないからである。どうかね。



西谷浩次郎 (松山市)

骨までも愛していると泥鰌鍋  
 愛妻と泥鰌鍋を食ったのだから。骨まるごと食べられるから健康にいいんだ。お腹の赤ちゃんのためにね。君のこと骨まで愛してるよ。あなたって私を泥鰌あつかいするのね。



村田 節子 (八幡浜市)

子の名前ルビが無ければ読めません  
 名前が難しければ「偉い人」になれるかもしれぬという幻想がある。しかし、将来選挙に立候補したときに困る。難しい名前の候補者は落選。これを「名前負け」という。嘘だと思っただけで辞書ひいてみなよ。

本コーナーが  
 待望の単行本化  
 好評発売中!!



加賀山一興 (宇和島市)

フローリング足が畳を恋しがり  
 戦後の日本では、アメリカさんの真似をして多くのものを衰弱させた。畳の暮らしも、そのひとつ。フローリングは汗を吸わないから、梅雨どきは困るんだ。

古今の名句



吉田 一男

過疎の村女王のように嫁が来る  
 農村の嫁不足は半世紀続いている。しかも、個人の問題として放置されている。これを悪政という。十年ぶりに村に嫁が来たりするとお祭騒ぎなんだろう。嫁さんは不美人でもかまわん。  
 (「ユーモア川柳傑作大典」より)

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。